

-大学院歯学独立研究科-
第 103 回 大学院 研究科 発表会 プログラム

大学院学生等が、これまでの研究成果を発表します。
どなたでも聴講できますので、多数の参加をお待ちしております (聴講申込不要)

場 所：実習館 2 階 総合歯科医学研究所セミナー室

日 時：2022 年 2 月 16 日 (水) 17 時 25 分 開会

No.	発表区分 予定時間	演題名・発表者	審査委員
	17:25	開会挨拶 平岡研究科長	
1	[大学院] 17:30~18:00 司会: 藪島教授	「触診による高齢者の喉頭位の高さ と嚥下機能との関連性 について」 田村 瞬至 (4 年 健康増進口腔科学講座 口腔健康政策学)	主査: 金銅教授 副査: 樋口教授 : 増田(裕)教授

発表内容の要旨(課程博士)
Abstract of Presented Research (For the Doctoral Course)

学籍番号 Student ID No.	ID#G 1806	入学年 Entrance Year	2018	年 Year
氏名 Name in Full	田村 瞬至			
専攻分野 Major Field	口腔健康政策学			
主指導教員 Chief Academic Advisor	齧島 弘之			
発表会区分 Type of Meeting	中間発表会 ・ 大学院研究科発表会 ・ 松本歯科大学学会 Midterm Meeting / Graduate school research meeting presentation / The Matsumoto Dental University Society			
演題名 / Title of Presentation				
触診による高齢者の喉頭位の高さと嚥下機能との関連性について				
発表要旨 / Abstract				
<p>【目的】 喉頭の挙上は喉頭蓋の反転に重要であり、嚥下障害患者は造影検査において喉頭の位置が加齢により下降するとの報告がなされている。今回嚥下機能を簡便にスクリーニングすることを目的に、当科にて嚥下機能が低下している患者の嚥下機能を評価した際に喉頭位を記録し、喉頭位が低下している場合に現れやすい嚥下機能の評価項目を調査した。</p> <p>【方法】 2018年1月から2021年3月までに松本歯科大学病院で摂食嚥下障害に関して外来受診または訪問診療を行った60歳以上の患者73名を対象に、喉頭位の高さのほかに医療面接で年齢、性別、基礎疾患、繰り返す発熱の有無、ムセの頻度と、スクリーニングとしておこなった反復唾液嚥下テストと改訂水飲みテストの値、湿性嗝声の有無を検討対象とした。精密検査は嚥下内視鏡または嚥下造影の少なくとも一方を実施し、咽頭収縮力、喉頭蓋の反転、喉頭侵入や誤嚥の有無、舌運動、咀嚼運動、軟口蓋挙上運動について評価した。</p> <p>喉頭位の高さは鎖骨の上縁から喉頭隆起までの距離を触診により測定し、触診した高さによりH,M,Lの3段階に分類した。喉頭位の高さの違いによって上記の評価項目に差があるのかについて統計学的に検討を加えた。</p> <p>【結果】 喉頭位の低下とともに平均年齢の上昇が見られ、RSST 平均回数の減少があり、ムセの頻度、喉頭挙上不全が増加する傾向にあったが、統計学的には有意差は認められなかった。しかし、喉頭位の低下により喉頭侵入、誤嚥において統計学的に有意な増加が認められた。</p> <p>【考察】 今後患者状態や訪問歯科診療下において嚥下内視鏡、造影検査が行えない状況でも医療面接やスクリーニング検査値と手指測定による喉頭位の高さ評価を併用することで喉頭侵入や誤嚥を判定できる一助となる可能性が示唆された。</p>				